



FastEther CB-TX

取扱説明書

使用および取り扱い上の注意

本製品を安全に使用するために、以下の事項を必ず守ってください。これらの事項が守られていない場合、感電、怪我、火災、故障などの原因になります。



分解禁止

本アダプターのカバーを外したり分解したりしないでください。感電や故障の原因となります。また、メディアケーブルも分解しないで下さい。



設置、ケーブル配線、移動は電源を抜いて

本アダプターの設置、ケーブル配線、移動などを行う場合は、必ずコンピュータの電源ケーブルを抜いて行ってください。



稲妻危険

稲妻が発生しているとき、本アダプターやケーブルの設置などの作業を行わないでください。落雷により、感電する恐れがあります。



次のような場所での使用や保管はしないでください

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所
(結露するような場所)
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所
(静電気障害の原因にもなります)
- ・腐食性ガスの発生する場所
- ・スピーカ付近などの強磁界



静電気注意

本アダプター・ケーブルは、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクタの接点部分などに素手で触れないでください。



取り付け・取り外し時の注意

コンピュータの PC カード用スロットに本アダプターを取り付ける作業は、必ずご使用のコンピュータのマニュアルを参照の上正しく行ってください。



動作温度と湿度

本アダプターは温度 0 ～ 55 ℃、湿度 0 ～ 90 % (ただし、結露なきこと) の範囲内でご使用下さい。



取り扱いは丁寧に

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えたりしないでください。



お子様の手の届かないところに保管してください



異物を入れないでください

本アダプターの隙間から金属、液体などの異物を入れないでください。本体内部に異物が入ると火災、感電などの恐れがあります。



長期保管時は袋に入れて

本アダプターを長期にわたって保管する場合は、コンピュータのPCカード用スロットに入れたままにしないで必ず袋に入れてください。



日常のお手入れ

本アダプターの汚れは、やわらかい乾いた布でふいてください。ペンジン、シンナーなどは使用しないでください。製品の変形、変色の原因になります。



高温注意

本アダプターは内部に多くの部品を集積しており、使用中に高熱を発するようになります。ご使用直後はかなり高温になっておりますので、ご注意ください。火傷の恐れがあります。



運搬時の注意

本アダプターをコンピュータのPCカードスロットに装着したままでコンピュータを運搬するときには必ず付属のケーブルを外して下さい。



濡れたカードは使用しない

カードが万が一濡れた場合はショートによる感電・火災を防ぐため、絶対に使用しないで下さい。



この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

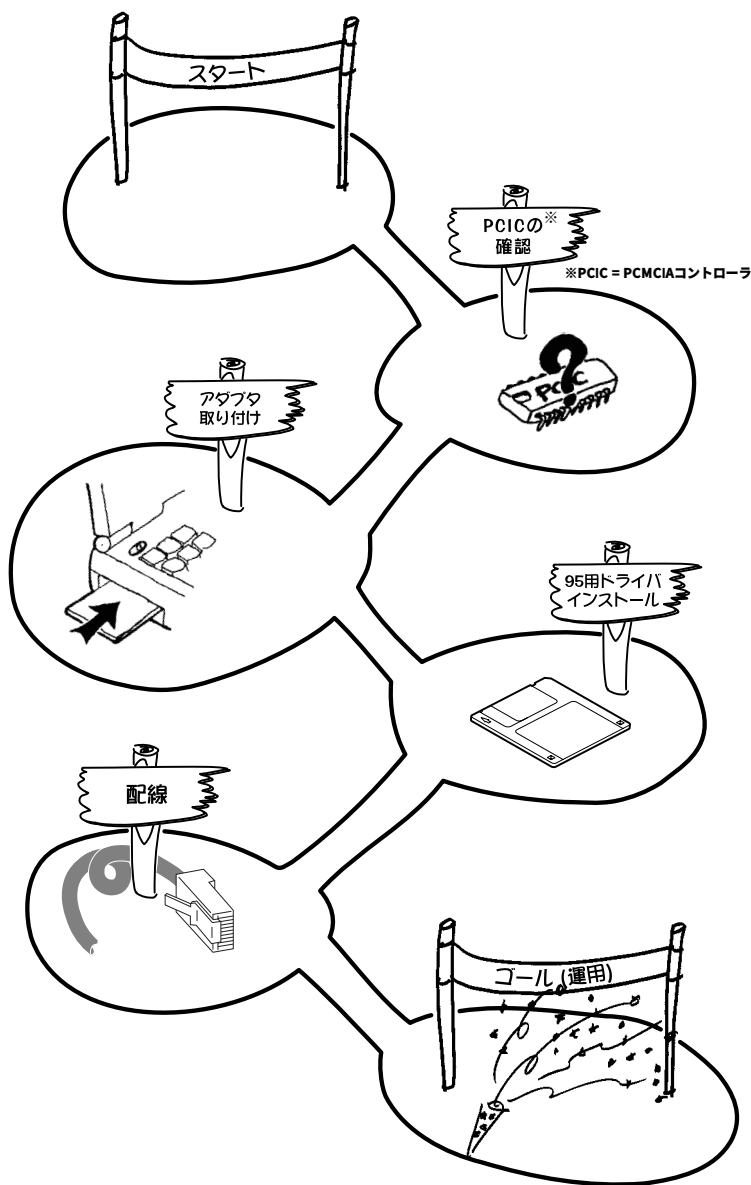
目次

0. インストールの流れ	7
1. 概要	8
1.1 特長	8
1.2 使用環境	9
1.2.1 対応コンピュータ機種	9
1.2.2 対応OS	9
1.3 各部の名称	10
1.3.1 外観図	10
1.3.2 各部の説明	11
1.4 100M Ethernetについて	12
1.4.1 10M /100M Ethernet	12
1.4.2 100BASE-T (Fast Ethernet)	12
1.4.3 100BASE-TX	13
1.5 Full duplexとAuto-negotiation機能	14
1.5.1 Full duplex	14
1.5.2 使用できる通信モード	14
1.5.3 Auto-negotiation機能とは	14
1.6 製品裏面のラベルについて	15
2. CardBusについて	16
2.1 CardBusとは	16
2.1.1 CardBusの特長	16
2.1.2 外観上の特徴	16
2.2 CardBusのご使用にあたって	17
2.3 電源に関するご注意（重要）	17
2.3.1 オートパワーオフ機能の解除	17
2.3.2 パワーマネージメントの設定	18
2.3.3 PC-9821Nrシリーズをご使用の場合	19
2.4 CardBusコントローラの状態確認	22
2.5 有効化の手順	24

3. スロットへの装着	26
3.1 スロットへの取り付け・取り外し	26
3.1.1 PCカードスロットへの取り付け	26
3.1.2 取り外し	26
3.2 活線挿抜について（重要）	27
3.2.1 活線挿抜に関するご注意	27
3.2.2 カードの挿入	28
3.2.3 カードの取り外し	29
4. アダプターの登録	30
4.1 ドライバーのインストール	30
4.1.1 準備と確認	30
4.1.2 インストールの手順	31
4.2 ドライバーの確認と設定	35
4.2.1 インストールの確認	35
4.2.2 本アダプターの設定	37
4.2.2.1 デバイスの使用許可の切り替え	37
4.2.2.2 I/Oアドレス、インタラプト（IRQ）の確認	38
4.2.2.3 他の拡張アダプターとの設定重複の確認	39
4.2.2.4 ネットワークの一般設定	40
4.2.2.5 詳細設定	41
4.3 登録内容の削除と再インストール	44
4.3.1 ドライバーの削除	44
4.3.2 再インストール	47
5. ネットワーク	48
5.1 ネットワーク接続の手順	48
5.2 メディアケーブルの接続	49
5.2.1 メディアケーブルの装着	49
5.2.2 メディアケーブルを取り外す	49
5.3 ネットワークに接続する	50
5.4 ネットワークケーブルについて	51
5.5 リンクの確認	51

A. 付録	52
A.1 規格仕様	52
1.ハードウェア仕様	52
2.機械的仕様	52
3.電氣的仕様	52
4.環境条件	52
5.信頼性	52
6.電気雑音の発生防止	53
7.ネットワーク機能	53
A.2 ネットワークインターフェース	54
A.3 MACアドレス	55
 保証	 56
 ユーザーサポート	 56
調査依頼書のご記入のお願い	57
ハードウェアとソフトウェア	57
お問い合わせ内容について	57
ネットワーク構成について	57
システムリソースレポート添付のお願い	58
システムリソースレポートの出力手順	58
システムリソースレポートの出力例	59
 調査依頼書	 61
おことわり	62

0. インストールの流れ



1. 概要

1.1 特長

本アダプターは以下の特長をもつPCカード型ネットワークアダプターです。

- ◆PC Card Standard (CardBus) に対応
- ◆Windows95 Version B の Plug & Play 対応
- ◆Type II CardBus対応PCカードスロットをもつNEC PC-98、AT互換機
ノート型PCに対応
- ◆10Mbps (10BASE-T) / 100Mbps (100BASE-TX)の2つの速度に対応
- ◆Auto-negotiation機能搭載
- ◆Full duplex / Half duplexの両方を実現
- ◆接続アダプターが付属
(RJ-45型10BASE-T / 100BASE-TX共用コネクタ (メス) を提供)
- ◆動作状態を表示する2個のLEDが付属 (カード本体)

1.2 使用環境

1.2.1 対応コンピュータ機種

本アダプターは PC Card Standard CardBus対応PCカードスロットを持つ以下のコンピュータ機種（Windows95 Version Bプリインストール機）に対応しています。

＊NEC PC-9821シリーズ

＊PC/AT互換機（DOS/V機）

1.2.2 対応OS

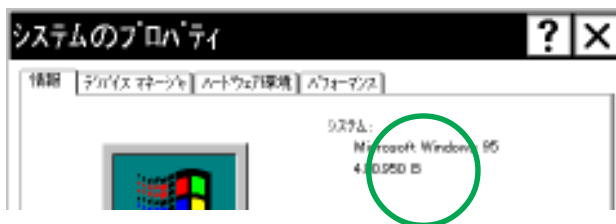
本アダプターはWindows95（4.00.950B＝Version B以降）[†]に対応しています。

[†] 現在、Windows95にはVersion 0, A, Bの3種が存在します。Windows95 Version BとはWindows95のCardBus対応バージョンの名称であり、Version 0とAではCardBusは動作しません。CardBusを使用するときにはVersion Bを搭載したコンピュータが必要です。

■Windows95のバージョン表示

Windows95 のバージョンは「システムのプロパティ」で確認できます。コントロールパネル→システム→情報と進み、"B"の文字を確認して下さい。

"4.00,950a"のように文字"a"がある場合はVersion A、文字が何もない場合はVersion 0です。CardBusはご使用になれません。

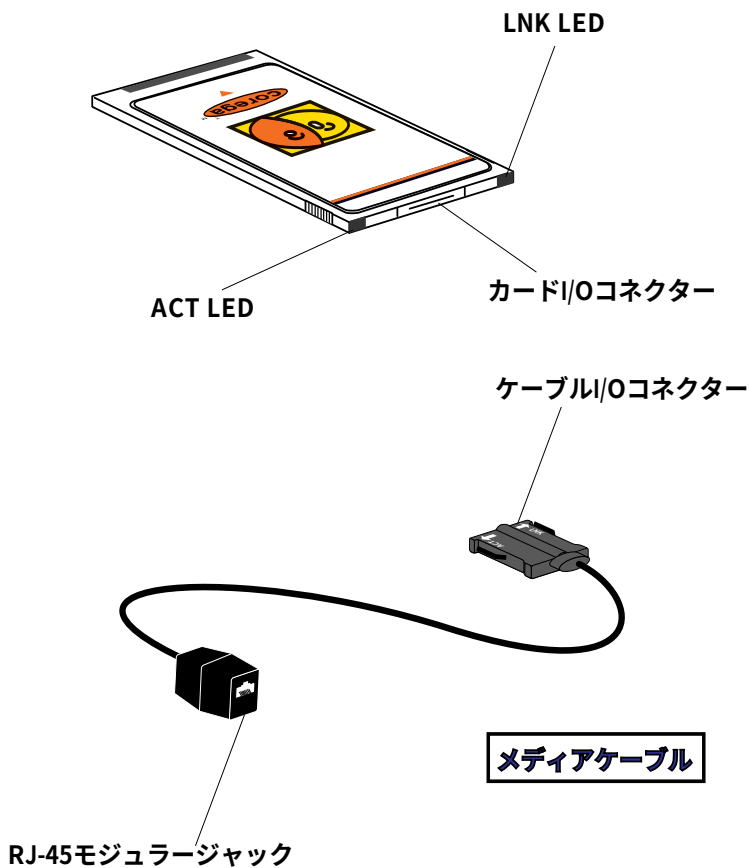


画面1 Windows95 のバージョン表示

1.3 各部の名称

1.3.1 外観図

corega FastEther CB-TX カード本体



1.3.2 各部の説明

1. カード本体

コンピュータのCardBus対応PCカードスロットに挿入し、ネットワークアダプターの機能を提供します。

1-1.カードI/Oコネクタ

「2.4 ケーブルI/Oコネクタ」を接続します。

2. メディアケーブル

本アダプターとネットワークを接続します。

2-1.ACT (ACTIVITY) LED (左)

パケットの送受信が行われると黄色で点灯します。

2-2.LNK (LINK) LED (右)

対向機器と正常にリンクが確立されると点灯します。

100Mbpsでの接続…オレンジ色

10Mbpsで接続…緑色

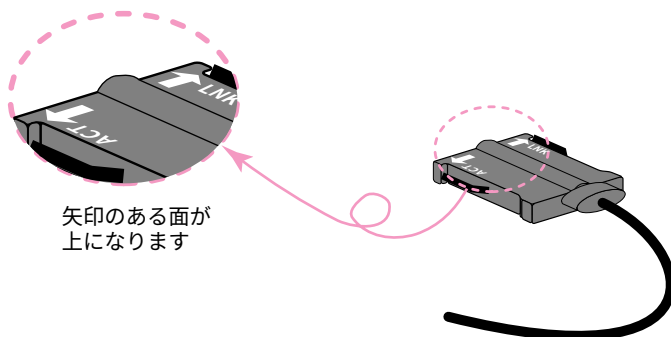
2-3.RJ-45モジュージャック

ネットワークケーブルのモジュラープラグを差し込みます。

†使用するネットワークケーブルについては本マニュアル5.4項をご覧ください。

2-4.ケーブルI/Oコネクタ

「1-1.カードI/Oコネクタ」に接続します。白矢印のある面を上にして接続してください。上下の面を逆にすると装着できないようになっていますので、挿してみても抵抗を感じるようでしたら、絶対に無理に押し込まないでください。破損の原因になります。



1.4 100M Ethernetについて

1.4.1 10M /100M Ethernet

従来のEthernetの標準はデータ伝送能力（ネットワーク全体の帯域幅）が10Mbps (=1.25M bytes/sec)のものであり、これを特に10M Ethernetと呼びます。これに対し、100Mbpsというデータ伝送能力を持つより高速なEthernet規格を総称して、100M Ethernetと呼びます^{†1}。100M Ethernetに対応したネットワークでは100Mbpsという高速なデータ転送によりネットワークの帯域を拡大し、画像や音声などの大量のデータ通信や、多数のクライアントがアクセスするサーバーに対してスループット(単位時間あたりの転送速度)を向上させることが可能です。

†1 この呼称（10M/100M Ethernet）は規格そのものを意味する他に、規格に対応したネットワークを指す場合もあります。

100M Ethernet には 100BASE-T (IEEE802.3u) や 100VG-AnyLAN (IEEE802.12)^{†2} などがあり、このうち、本アダプターは 100BASE-T に対応しています。IEEE802委員会により1992年から行われた 100M Ethernet の規格化は、100BASE-Tについては IEEE802.3u として、100VG-AnyLANについては IEEE802.12としてほぼ標準化が完了しています。

†2 100VG-AnyLANと100BASE-Tとの共存はできません。

1.4.2 100BASE-T (Fast Ethernet)

IEEE802.3uで標準化された100BASE-Tは、10BASE-T^{†3} (10Mbps)の100Mbps版であり(Fast Ethernetとも呼ばれています)、従来の10BASE-T規格を継承した仕様になっています。100BASE-Tは、現在のネットワーク管理ツールやプロトコルに関する知識をそのまま適用することが可能であり、また10BASE-Tとの混在も可能なため、あらゆるネットワーク環境に柔軟に対応することができます。

†3 Ethernetのデータ伝送メディアとして使用されるネットワークケーブルの規格、もしくはケーブル自体を指します。10BASE-Tを使用したネットワークはハブを中心としたスター構成となります。

また、100BASE-TにはオプションとしてFull duplex（全二重）通信とAuto-negotiation機能が用意されており、本アダプターはどちらの機能も装備しています。詳細は「1.5 Full duplexとAuto-negotiation機能」をご覧ください。

1.4.3 100BASE-TX

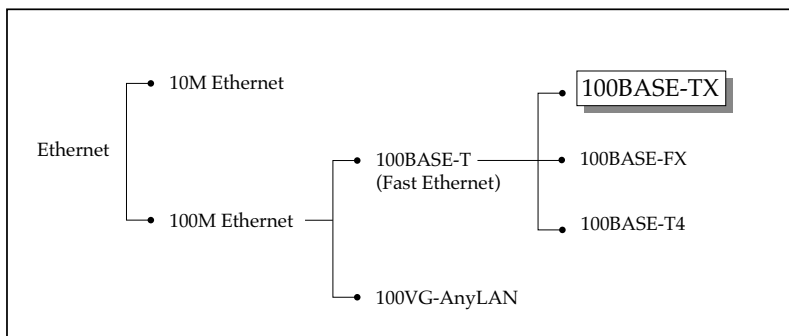
IEEE802.3uで標準化された100BASE-Tは、100BASE-TX・100BASE-FX・100BASE-T4の3つの規格があり、それぞれ使用するケーブルの種類が異なります。

このうち、本アダプターが対応している規格は100BASE-TXであり、これはカテゴリ5のUTPケーブル（RJ-45コネクタ）を使用します^{†4}。100BASE-TXの特長として、IEEE802.3 (10BASE-T) との互換性の維持を最大の目的として開発されていることが挙げられ、従来の10M Ethernetの環境から100M Ethernet への移行時期にも柔軟に対応できます。また、100BASE-TXは1つのRJ-45コネクタで10BASE-Tと100BASE-TXを自動で認識し、10Mbpsと100Mbpsが混在するネットワークにおいて、速度切り替えの手間を要しません。

†4 IEEEでの規格上はネットワークケーブルはSTP（Shielded Twisted Pair）ケーブルとUTP（Unshielded Twisted Pair）ケーブルの両方が規定されていますが、本マニュアルでは主流であるUTPケーブルについて記述しています。

また、100BASE-TXは従来の10BASE-Tと同様、10Mbpsでの通信もサポートしており、現在10M Ethernetで構築・運用されているネットワーク環境にそのまま接続することができます。

（参考）100M Ethernet



（参考）100BASE-Tの3つの規格と使用ケーブル

- 100BASE-TX（本アダプターで使用）…カテゴリ5のUTPケーブル
- 100BASE-FX…2芯マルチモードの光ファイバーケーブル
- 100BASE-T4…カテゴリ3の4対8線のUTPケーブル

1.5 Full duplexとAuto-negotiation機能

1.5.1 Full duplex

本アダプターはFull duplex機能を備えています。Full duplexとは、100BASE-T規格においてオプションとして規定されている機能の一つで、コリジョン検出の機能とループバック機能を省略することで200Mbps（最大）の伝送速度を実現します。Full duplexを実現するにはクロスケーブルまたはスイッチングハブを使用します（コリジョン検出を省略するため）。

1.5.2 使用できる通信モード

本アダプターでは、以下の4種類の通信モードを使用できます。

- 1) 100Mbps Full duplex（100Mbps 全二重通信）
- 2) 100Mbps Half duplex（100Mbps 半二重通信）
- 3) 10Mbps Full duplex（10Mbps 全二重通信）
- 4) 10Mbps Half duplex（10Mbps 半二重通信）

1.5.3 Auto-negotiation機能とは

本アダプターはAuto-negotiation機能を搭載しています。Auto-negotiation機能とは、通信に先立って対向装置がサポートしている通信速度を判断し、最適な通信速度を選択する機能です。ただし、対向装置も同様にAuto-negotiation機能を持っていることが必要です。

対向装置が上記（1.5.2項）の4つの通信モードのうち2つ以上のモードをサポートし、（かつAuto-negotiation機能を持つ場合は）通信速度が速いものが（1→2→3→4の順で）選択されます。例えば、2と4をサポートしている場合は、2を選択して通信を行います。

対向装置がAuto-negotiation機能を持たない場合に本アダプターのAuto-negotiation機能を有効にしたままでは通信を行うと、通信速度（100Mbps/10Mbps）の選択のみ自動的に行われますが、duplexモード（Full/Half duplexの選択）は常にHalf duplexが選択されます。例えば、対向機器が100M Full duplexをサポートしている場合は100M Half duplexで通信を行ってしまいます。対向装置がAuto-negotiation機能を持たない場合には手動で最適な通信モードに設定して下さい（設定方法は第4部参照）。

1.6 製品裏面のラベルについて

本アダプターの裏面にはラベルが3枚貼付されています。
各ラベルの内容は以下の通りです。

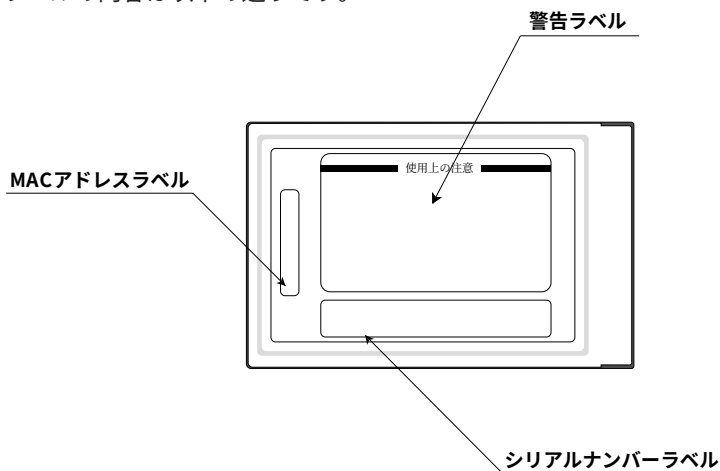


図 1-2 本アダプター裏面

1 警告ラベル

本アダプターを安全にご使用いただくために重要な情報が記されています。必ずお読みください。

2 MACアドレスラベル

各アダプターに固有のMACアドレスが記入されています。MACアドレスについては付録「A.3 MACアドレス」をご覧ください。

3 シリアルナンバーラベル

本アダプターのシリアルナンバー（製造番号）が記入されています。パッケージ（外箱）の側面に貼付されているラベルや同梱のシリアルナンバーラベル（3枚）と同じものです。

（同梱されているシリアルナンバーラベルは「ユーザー登録用紙」と「製品保証書」（本取扱説明書巻末）に貼付してください。残る1枚は予備です。）

2. CardBusについて

2.1 CardBusとは

本アダプターは32ビットバスマスタ方式を採用した、PC Card Standard（PCカードの世界標準）のCardBus対応のPCカードです。

2.1.1 CardBusの特長

従来はPCMCIA2.1/JEIDA4.2規格に基づいた16ビットカードが主流でしたが、CardBusはその32ビット拡張版（バス幅32 bits、クロック33MHz、データ転送レート132Mbps/sec最大）と言えます。従来の16ビットカードは信号線プロトコルがISAバスの仕様をもとに開発されていますが、CardBusはPCIバスをもとに開発されています。

2.1.2 外観上の特徴

CardBus対応のカードは、誤挿入防止キーとグラウンドプレートの2点が特徴です。

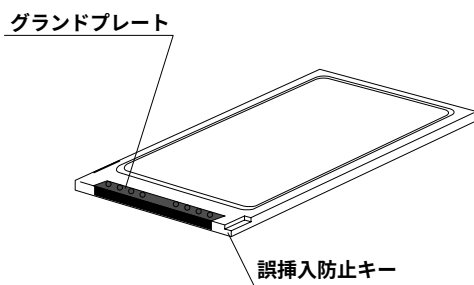


図 2-1 CardBus 対応 PC カード

(1) 誤挿入防止キー

CardBus非対応のPCカードスロットに誤って挿入するのを防ぐためのキーです。

(2) グラウンドプレート

高速なデータ転送を実現するためのプレート（金属板）です。

グラウンドプレートの部分は手や金属で触れたり、汚したりしないようご注意ください。

2.2 CardBusのご使用にあたって

CardBus対応PCカードのご使用において、以下の点に特にご注意下さい。

1. CardBusに対応していない機種では、絶対にカードを装着しないでください。

CardBus対応PCカードでは、CardBus非対応機種のPCカードスロットに誤ってカードを挿入することを防ぐためにカードの形状を工夫してあります。（1.2項参照）したがって無理に装着しようとするとカードまたはPCカードスロットを破損させる恐れがありますので、ご注意ください。

2. PCMCIAコントローラはCardBus対応のものをご使用ください。

PCMCIAコントローラがCardBus対応のものでない、あるいはCardBus対応であるが有効化されていない場合、CardBus対応PCカードは全く動作しません。詳細は「2.3 CardBusコントローラの状態確認」をご覧ください。

3. PCカードスロットに電源が供給されていることをご確認ください。

コンピュータの中にはPCカードスロットへの電源供給のON/OFFを設定できるものがあります。そのような機種の場合、PCカードのご使用の前に、必ず電源が供給されていることをご確認ください。

2.3 電源に関するご注意（重要）

2.3.1 オートパワーオフ機能の解除

ご使用のコンピュータがオートパワーオフ機能を備えている場合は必ず解除してお使い下さい。

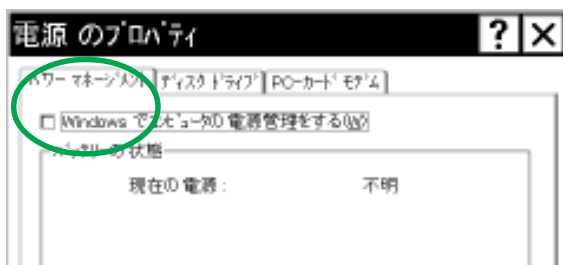
オートパワーオフ機能（一定時間コンピュータに何も操作が行われなかったときに自動的に電源を落とす機能）を持つコンピュータの場合、本製品をネットワークに接続している間にコンピュータの電源がOFFになる恐れがあります。その場合、機種によってはコンピュータ本体と同時にPCカードスロットへの電源供給もOFFになるものがあり、ネットワークに障害が発生する恐れがあります。

オートパワーオフ機能についての詳細および解除の方法についてはコンピュータのマニュアルをご覧ください。

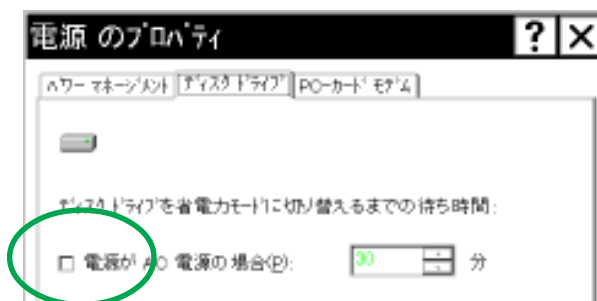
2.3.2 パワーマネージメントの設定

PC-9821Nrシリーズ^{†1}（PC-9821 Nr15/Nr150/Nr166等）をご使用の場合、「パワーマネージメント」（Windows95コントロールパネル）を以下のように設定してください^{†2}。この設定をしないままでは本製品をご使用になるとコンピュータ内部のCardBusコントローラへの電源供給の状態が不安定になり、コンピュータが動作しなくなるなどの障害を招く恐れがあります。

- 1) 「スタート」→「設定(S)」→「コントロールパネル」と進み、「パワーマネージメント」を起動します。
- 2) 「パワーマネージメント」タブの「Windowsでコンピュータの電源管理をする」チェックボックスをオフ（チェックしない）にします。（工場出荷時はオンに設定されています。）



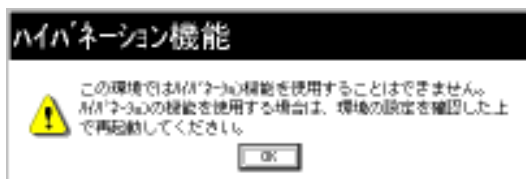
- 3) 「ディスクドライブ」タブの「電源がAC電源の場合」チェックボックスをオフ（チェックしない）にします。（工場出荷時はオンに設定されています。）



^{†1} AT互換機でもこの設定を行うことを推奨します。なお、PC-9821Nwシリーズの場合はこの設定は必要ありません。

^{†2} PC-9821Nrシリーズに関してはその他にも設定が必要です。引き続き2.3.3項にPC-9821Nrシリーズに関する注意事項をまとめてありますので必ずご覧ください。

- 4) コンピュータを再起動します。
- 5) 再起動後はコンピュータを起動する度に下のダイアログが表示されるようになりますので^{†1}、「OK」をクリックしてダイアログを閉じて下さい。



2.3.3 PC-9821Nrシリーズをご使用の場合

本製品をNEC PC-9821Nrシリーズ（PC-9821 Nr15/Nr150/Nr166等）でご使用になる場合は以下の手順にしたがい、「省電力モード」の設定と本製品が使用するメモリの予約を**必ず**行って下さい。

※ 「省電力モード」「ハイバネーション機能」などについての詳細はコンピュータのマニュアルをご覧ください。

1. 省電力モードの設定

1-1. 「パワーマネージメント」 (Windows95 コントロールパネル)

初めに、2.3.2項にしたがって「パワーマネージメント」の設定を行って下さい。

1-2. 「98NOTEメニュー」ユーティリティ

次に「98NOTEメニュー」ユーティリティの設定を行います。

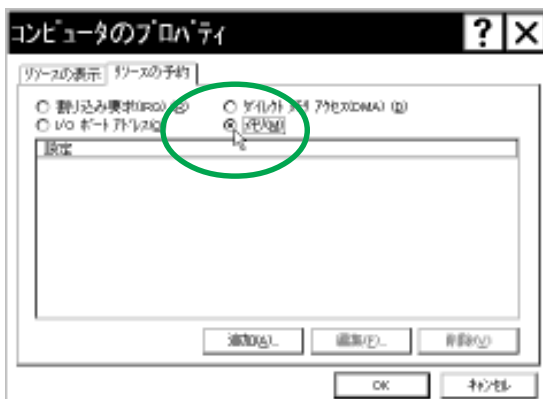
- 1) 「98NOTE メニュー」ユーティリティを起動します。（起動の手順についてはコンピュータのマニュアルをご覧ください。）
- 2) 「メインメニュー」の「省略時の設定」にカーソルを合わせ、「省電力モード」で「フルパワー」を選択します。
（多くの機種では工場出荷時は「フルパワー」に設定されていますが、必ずご確認ください。）
- 3) コンピュータを再起動します。

^{†1} このダイアログを表示させたくない場合は、「スタートアップ」フォルダから「ハイバネーション機能」アイコンを外すと、ダイアログの表示を回避できます。「ハイバネーション機能」についての詳細はコンピュータのマニュアルをご覧ください。

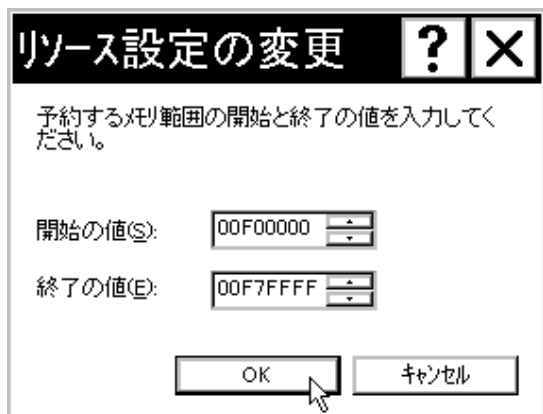
2. メモリの予約

次に本製品が使用するメモリを予約します。

- 1) 「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」→「コンピュータ」→「コンピュータのプロパティ」パネル→「リソースの予約」と進み、「メモリ」を選択し、「追加」をクリックします。



- 2) 「開始の値」に "00F00000"、「終了の値」に "00F7FFFF" を入力し、「OK」をクリックします。



- 3) 下のダイアログが表示されますが、「OK」をクリックしてそのまま進みます。



- 4) 下のダイアログが表示されます。内容を確認して「OK」をクリックしてください。



- 5) コンピュータを再起動します。

2.4 CardBusコントローラの状態確認

本カードを使用するために、お使いのCardBus対応コンピュータのCardBus対応PCMCIAコントローラ（以下、CardBusコントローラ）の設定を確認し、有効でない場合は有効化します。



CardBusコントローラが有効化されていないコンピュータでは本カードはご使用になれません。

次の手順にしたがって、CardBusコントローラの状態を確認して下さい。

1. スタート→設定→コントロールパネル→システムの順にアイコンをダブルクリックします。「システムのプロパティ」画面が表示されます。
2. 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、「PCMCIAソケット」アイコンをダブルクリックします。



画面1 デバイスマネージャ

3. 画面2を参考にして、CardBusコントローラ^{†1}が使用可能（有効）であることを確認してください。画面2では「Texas Instruments PCI-1130 CardBus Controller」がCardBusコントローラを表しています^{†2}。



画面2 有効な CardBus コントローラ（例）

- †1 CardBusコントローラは必ず**2列以上**表示されますので、すべて有効であることを確認してください。
- †2 CardBusコントローラの表記はコンピュータにより異なりますので、コンピュータのマニュアルでご確認ください。

2.5 有効化の手順

次のような表示である場合は、CardBusコントローラが使用不可能ですので、有効化します。

■「PCMCIAソケット」アイコンに×印がついている

この場合はPCMCIAデバイス（LANアダプターカードを含む）が使用できない状態です。コンピュータのマニュアルをご覧ください、BIOSのセットアップまたはアップグレードを行ってください。

■「PCMCIAソケット」の項目が存在しない

この場合はPCMCIAコントローラのインストールが必要です^{†1}。

以下の手順にしたがって、セットアップを行ってください。

1. コントロールパネルの「PCカード（PCMCIA）」アイコンをダブルクリックします。
2. 「PCカードウィザード」が起動します。画面の指示にしたがってインストールを行います。
3. インストールが終了したら、コンピュータを再起動します。
4. 再起動後、再び「PCカード（PCMCIA）」アイコンをダブルクリックします。インストールが正常に行われていれば「PCカード（PCMCIA）」のプロパティ画面が表示されます。
5. 2.3項の手順にしたがって、CardBusコントローラの状態を確認します。

^{†1} 多くのブリーインストール機種では予めPCMCIAコントローラがインストールされて出荷されています。

■ 「PCMCIAソケット」の下に「PCICまたは互換PCMCIAコントローラ」が表示されている

「PCICまたは互換PCMCIAコントローラ」は従来の16ビットPCカード専用のコントローラです。CardBus対応のPCカードは使用できません。また、本アダプターをPCカードスロットに挿入してもデバイスの検出が行われません。

「PCICまたは互換PCMCIAコントローラ」が表示された場合は、ご使用のコンピュータがCardBus非対応の機種であるか、もしくは16ビット／32ビットPCカード（＝CardBus）の両方に対応しているが、現在は16ビットPCカード用コントローラのみを使用する設定になっていると考えられます^{†1}。お使いの機種がCardBus対応の機種であることを確認の上、CardBus対応であれば、コントローラの切り替えを行って下さい。コントローラの切り替えの手順はコンピュータのマニュアルをご覧ください。

†1 CardBusコントローラには1つで16ビット／32ビットの両タイプのカードを扱えるものと、32ビット（＝CardBus）のみに対応するものが存在します。後者の場合は16ビットPCカードを使用する際には切り替えを行って下さい。

■ 「PCICまたは互換PCMCIAコントローラ」とCardBusコントローラの両方が表示されている

このような状態でコンピュータを使用するとコンピュータがSafeモードで起動、あるいはハングアップする可能性があります。「PCICまたは互換PCMCIAコントローラ」とCardBusコントローラ（すべて）を一旦全て削除し、再びCardBusコントローラのみをインストールします。コントローラのインストールの手順^{†2}はコンピュータのマニュアルをご覧ください。

†2 削除後、再起動を行うと自動的に正しいコントローラがインストールされる機種もあります。

3. スロットへの装着

3.1 スロットへの取り付け・取り外し

ここでは、本アダプターのPCカードスロットへの取り付けおよび取り外しの手順を、コンピュータの電源を入れないで行うという前提で説明します。コンピュータの電源を入れたままでカードの抜き差しをする場合は3.2項を先にお読み下さい。

3.1.1 PCカードスロットへの取り付け

- (1) "corega FastEther CB-TX"の文字が印刷された面を上にして[†]コンピュータのPCカードスロットに挿入してください。PCカード取り付けについての詳細は、ご使用のコンピュータのマニュアルをご覧ください。
- (2) 本アダプターをカチッと手応えがあるまで押し込んでください。

[†] コンピュータの機種によっては下に向けて装着するものもあります。

3.1.2 取り外し

コンピュータの取り外しボタンを押すと、本アダプターはPCカードスロットから外れ、手で取り出せる状態になります。メディアケーブルを引っ張ってカードを引き抜くことは絶対におやめください。本アダプター・ケーブルの故障の原因となります。

(参考) メディアケーブルをカード本体から取り外す場合もケーブルI/Oコネクタ部分に無理な力をかけて引き抜くことは絶対におやめ下さい。取り外すときはI/Oコネクタ両側の爪の部分を親指と人差し指で摘みながら引いてください。

常に同じスロットでご使用下さい

本アダプターを挿入するPCカードスロットは常に同じものにしてください。異なるPCカードスロットに挿入した場合、新しいデバイスとして認識し、新たにドライバーのインストールを促されることがあります。そのような場合は「キャンセル」をクリックし、元どおりのPCカードスロットに挿入し直して下さい[†]。

[†] 本アダプターを挿入するスロットを変更したい場合は、一旦登録内容を削除してから行います。登録内容の削除を終えてから、改めて本アダプターを新しいスロットに挿入し、ドライバーのインストールを行って下さい。手順については本書「4.3 登録内容の削除と再インストール」をご覧ください。

3.2 活線挿抜について（重要）

本製品の抜き差しをコンピュータの電源が入ったままで行う（活線挿抜する）場合は特に注意が必要です。

3.2.1 活線挿抜に関するご注意

本アダプターに対して活線挿抜を行う際は特に以下の点にご注意下さい。これらの点をお守りいただかないで起こった障害に関してはユーザーサポートの対象外とさせていただきます。



必ず本マニュアルに記載した手順の通りに行ってください。

活線挿抜を行うにはいくつかの注意点があり、注意を怠るとコンピュータのハングアップや、Windows95ファイルの破壊などのおそれがあります。本アダプターの抜き差しを行う際は3.2.2～3.2.3項を熟読の上、慎重に行ってください。



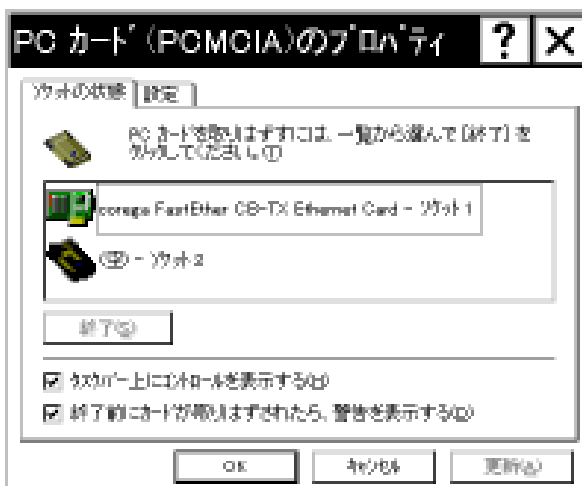
パケットの送受信が行われていないことをご確認ください。

パケットの送信または受信が行われている最中にカードを抜くことは絶対におやめ下さい。コンピュータに悪影響を及ぼすおそれがあります。

パケットの送受信は ACT LED（カード本体に装備）の点灯で判断できます。

3.2.2 カードの挿入

コンピュータの電源が入ったままで本アダプターをPCカードスロットに挿入するとWindows95のPlug & Play機能により、Windows95は本アダプターを検出し、「ソケットの状態」（「コントロールパネル」→「PCカード（PCMCIA）」→「ソケットの状態」）に「corega FastEther CB-TX Ethernet Card」の名前で表示されます[†]。



画面1 ソケットの状態（コントロールパネル）

[†] 初めて本アダプターを挿入したとき（＝本アダプター用のドライバーのインストールが行われていない場合）はドライバーのインストールが開始されます。ドライバーのインストールについては第4部をご覧ください。

3.2.3 カードの取り外し

コンピュータの電源が入っているときに本アダプターを抜くと実行中のアプリケーションの動作に支障をきたすおそれがありますので、安全のために必ず以下の操作を行ってからカードを抜いて下さい。

1. タスクバー（スクリーン右下）のPCカードアイコン（画面2では最も右側にあるアイコン）をクリックします。「corega FastEther CB-TX Ethernet Cardの中止」バーが表示されたら（画面3）バーをクリックしてください。



画面2 タスクバー



画面3 corega FastEther CB-TX Ethernet Card の中止

2. 下のダイアログが表示されたら、「OK」をクリックします。



画面4 デバイスの取り外し

3. 3.1.2項にしたがって、カードを取り外します。

4. アダプターの登録

4.1 ドライバーのインストール

4.1.1 準備と確認

インストールを始める前に、以下のものをご用意下さい。

1. 本アダプター本体

付属のハードウェア（メディアケーブル等）はインストールの段階では特に必要ではありません。

2. コンピュータ（Windows95 Version Bインストール済み）

3. Windows95のマスターディスク（CD-ROMまたはフロッピーディスク）

4. 本アダプター用ドライバーディスク（本カード付属）

重要：ご使用のコンピュータのOSがプリインストール版であり、バックアップCD-ROMをお持ちでない場合は、必ずフロッピーディスクにバックアップを取った後でドライバーのインストールを開始してください。

ここに挙げた手順は一例です。お客様の環境によっては、手順が若干異なることがあります。（本書に掲載した画面はAT互換機のもので、PC-98シリーズの場合はディスクドライブ名が異なります。）

4.1.2 インストールの手順

1. コンピュータの電源を入れ、Windows95を起動します。
2. コンピュータのPCカードスロットに本アダプターを挿入します。
挿入の手順については「第3部 スロットへの装着」およびご使用のコンピュータのマニュアルを参照してください。
3. Windows95は、本アダプターを検出し^{†1}「デバイスドライバウィザード」が起動します。本アダプター用ドライバーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入し、「次へ>」をクリックしてください。



画面1 デバイスドライバウィザードの起動

†1 デバイス名として「PCI Ethernet Controller」が表示されます。

4. 「デバイスドライバウィザード」は下の画面を表示します。画面の内容を読んだ上で、「完了」をクリックして下さい^{†2}。



画面2

†2 自動検索を使わず、「場所の指定(O)...」ボタンを使ってディレクトリを直接指定することもできます。
この場合はディレクトリ名として「\windows.95」を選択して下さい。

5. お客様の環境によっては、下のダイアログが表示されることがあります。ディスクドライブに本アダプター用ドライバードискが入っていることを確認の上、「OK」をクリックします。



画面3 ディスクの挿入（本アダプター用ドライバードиск）

6. 次のダイアログが表示されたら、パスを「A:\」と入力し[†]、「OK」をクリックします。（フロッピードライブをA:と仮定します。）



画面4 ファイルのコピー（本アダプター用ドライバードиск）

[†] 「場所の指定(O)」ボタンを使用して直接ディレクトリを指定した場合は（前ページの脚注[†]2を参照）「\windows.95」を入力してください。

7. ファイルのコピーが開始され、途中でWindows95のマスターディスク（CD-ROMまたはフロッピーディスク）を要求されます。下のダイアログが表示されたらそのまま「OK」をクリックして下さい。



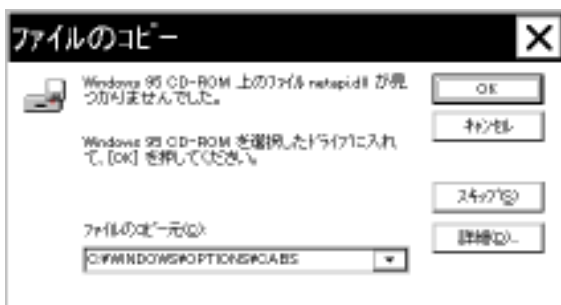
画面5 ディスクの挿入（Windows95 CD-ROM）

8. 次のダイアログが表示されます。

「drv:\windows\options\cabs」を入力してください。

通常、drv:はDOS/VではC:、PC-98ではA:となります。

機種によっては必要なファイルが\windows\options\cabsに存在しないことがあります。その場合はコンピュータのマニュアルをご覧ください。検索コマンドにより拡張子「cab」のファイルが存在するディレクトリを探し、そのディレクトリを指定してください。



画面 6 パスの指定 (プリインストール版 Windows95 の場合)

(参考)

CD-ROM、フロッピーディスク等のメディアを使用する場合は以下のようにパスを指定してください。

■フロッピーディスクの場合

指示された番号のディスクをフロッピーディスクドライブに入れ、「ファイルのコピー元 (C) :」で「drv:」を入力してください。通常、drv:はDOS/VではA:、PC-98ではB:となります。

■CD-ROMの場合

CD-ROMをドライブに挿入し、「E:\WIN95」を入力してください。(ここでは、CD-ROMドライブをE:と仮定します。)

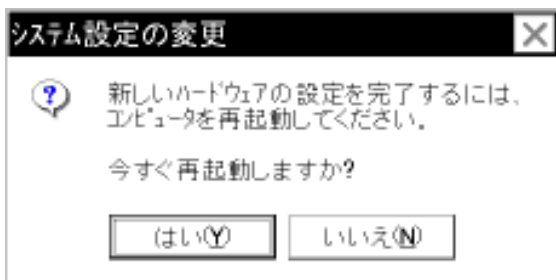
9. コピーが終了すると、下のダイアログが表示されますので、コンピュータ名、ワークグループ名[†]、コンピュータの説明（省略可）の入力をします。ワークグループ名はシステム管理者にご確認下さい。



画面7 「ユーザー情報」の入力

[†] コンピュータ名およびワークグループ名の入力には15字以下の半角文字を使用します。詳細はWindows95のマニュアルおよびオンラインヘルプをご覧ください。

10. ダイアログ「システム設定の変更」が表示されます。「今すぐ再起動しますか?」という問いに対して、「いいえ (N)」をクリックし一旦ダイアログを閉じてからコンピュータの電源を完全にOFFにします（「スタート」→「Windowsの終了」→「コンピュータの電源を切れる状態にする」）。



画面8 システム設定の変更

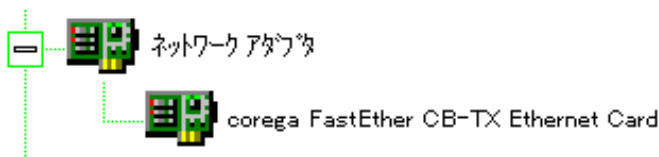
11. その後、再起動してください。以上でインストールは終了です。

4.2 ドライバーの確認と設定

4.2.1 インストールの確認

コンピュータを再起動したら、「デバイスマネージャ」でインストールが正しく行われていることを確認します。

1. 「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」→「ネットワークアダプタ」と進んで下さい。
2. 「ネットワークアダプタ」の下に「corega FastEther CB-TX Ethernet Card」の項目が表示されていることを確認してください。



画面8 デバイスマネージャ

次のような場合はインストールに失敗しています。「4.3 登録内容の削除と再インストール」をご覧の上、再インストールを行ってください。

- 「その他のデバイス」「不明なデバイス」の下にある場合
- アイコンに「!」「?」マーク[†]がある場合
- 「corega FastEther CB-TX Ethernet Card」が2つ以上ある場合

[†] 「×」マークがある場合は「使用不可」に設定されています。詳細は4.2.2.1項をご覧ください。

3. また、「情報」で「デバイスの状態」で「このデバイスは正常に動作しています。」と表示されていることをご確認ください。

「corega FastEther CB-TX Ethernet Card」を選択（反転表示）し、「プロパティ」をクリックし、「情報」タブを表示し、「デバイスの状態」欄を表示します。



画面9 デバイスの状態

（参考）「ドライバ」タブを選択し、ドライバーに関する情報を表示した場合、「このデバイスにはドライバファイルが必要でないか、または組み込まれていません。」というメッセージが出ることがありますが、問題ありません。



画面10 「ドライバ」タブ

4.2.2 本アダプターの設定

4.2.2.1 デバイスの使用許可の切り替え

デバイスマネージャで「corega FastEther CB-TX Ethernet Card」に「×」マークがある場合は「デバイスの使用不可」に設定されています。以下の手順にしたがって使用許可を切り替えます。

1. 「corega FastEther CB-TX Ethernet Card」を選択（反転表示）し、「プロパティ」をクリックし、「情報」タブを表示します。



画面 11 デバイスの状態

2. 「このハードウェア環境で使用不可にする」のチェックを外してください。

4.2.2.2 I/Oアドレス、インタラプト（IRQ）の確認

本アダプターが使用するI/Oアドレス、インタラプト（IRQ）などのリソースはWindows95によって自動的に設定されます。

値を確認するには「デバイスマネージャ」→「ネットワークアダプタ」→「corega FastEther CB-TX Ethernet Card」→「プロパティ」→「リソース」により現在の設定を確認することができます。



画面 12 リソース

「競合するデバイス」の欄にはCardBusによって本アダプターに割り当てたリソースが表示されています。

CardBusコントローラとリソースが競合しているような記述になっていますが、問題ありません。（競合は起きていません。）

4.2.2.3 他の拡張アダプターとの設定重複の確認

本アダプター用ドライバーのアイコンに「?」、「!」、マークが付いている場合は、他の拡張アダプターとの設定重複の可能性があります。ノートパソコン用の拡張ドック（ボックス）などを使用している場合は注意が必要です。

特に、Plug & Playに対応していない他の拡張アダプターを使用している場合は、以下のことを実行し、その拡張アダプターが使用するリソースを予約（使用するリソースの値をユーザー側で予め確保し、他のデバイスが使用しないようにすること）しておかなければなりません。

- [1] 拡張アダプターが使用するリソース（インタラプト（IRQ）、I/Oポートアドレス、メモリ、ダイレクトメモリアクセス（DMA））を調べておきます。詳細は、その拡張アダプターのマニュアルをご覧ください。または、メーカーにお問い合わせください。
- [2] 「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」→「コンピュータ」→「コンピュータのプロパティ」パネル→「リソースの予約」と進み、拡張アダプターが使用するリソースを予約してください。
（本書2.3.3項「2.メモリの予約」にメモリのリソース値を予約する手順を示してありますので参照してください。）

4.2.2.4 ネットワークの一般設定

「コントロールパネル」の「ネットワーク」を起動してご使用のネットワーク環境に応じたプロトコル、クライアントなどの設定を行ってください。設定についての詳細はシステム管理者にお問い合わせください。



画面 13 ネットワークの一般設定

4.2.2.5 詳細設定

次に、より詳細な設定を行います。

設定は「詳細設定」（コントロールパネル→ネットワーク→corega FastEther CB-TX Ethernet Card→プロパティ→詳細設定）で行います。

多くの設定項目が用意されていますが、通常のご使用では次の4項目の設定のみ行って下さい。他の項目については出荷時設定のままでご使用下さい[†]。

[†] 値を変更したあとで工場出荷時の状態に戻したい場合には一旦ドライバーを削除した上で再インストールしてください。（手順は4.3項をご覧ください。）

■Store And Forward:

本アダプターが送信を開始するタイミングを指定します。通常は、**Enabled**（初期設定）でご使用ください。



画面 14 Store And Forward

Disabledを選択した場合は100Mbps Transmit Threshold / 10Mbps Transmit Threshold（次ページ参照）の設定が有効になります。**Enabled**を選択した場合は、送信データの全てが送信FIFOバッファにたまった時点でパケットの送信が開始されます。

■100Mbps Transmit Threshold / 10Mbps Transmit Threshold:

Store And ForwardがDisabledのときに意味をもつパラメータで、送信開始のしきい値を指定します。通常は、初期値（10M:96bytes、100M:128bytes）のままでご使用ください。



画面 15 100Mbps Transmit Threshold



画面 16 10Mbps Transmit Threshold

例えば、128bytesを選択した場合、送信FIFOバッファに128バイトがたまった時点でパケットの送信が開始されます。手動で数値を特定する場合は、72、96、128、160bytes（10Mbps）、128、256、512、1024bytes（100Mbps）の4つの選択肢の中から適当なものを選択して下さい。

■ Connection Type:

10BASE-T、100BASE-TX、Full duplex、Half duplexなどの選択を行います。
初期設定は**AutoSense**です。



画面 17 Connection Type

AutoSense

Auto-negotiationを有効（Enable）に設定します。接続されているハブがAuto-negotiationをサポートしている場合、可能な最高の速度となります。しかしながら、ハブがAuto-negotiationをサポートしていない場合、通信速度のみ自動的に検出し、検出された速度のHalf duplexモードとなります。ハブがAuto-negotiationはサポートしていないが、100MbpsのFull duplexモードをサポートしている場合、最高の通信速度を得るためには「100BaseTx Full_Duplex」を選択しなければなりません。

100BaseTx

100BASE-TXのHalf duplexモードに設定します。

100BaseTx Full_Duplex

100BASE-TXのFull duplexモードに設定します。

10BaseT

10BASE-TのHalf duplexモードに設定します。

10BaseT Full_Duplex

10BASE-TのFull duplexモードに設定します。

4.3 登録内容の削除と再インストール

本アダプター用ドライバーのインストールを一旦完了すると、その内容は保存されますので、次回からはPCカードスロットに本アダプターを挿入するだけで使用できます。

再びインストールを行う場合には登録内容を一旦削除してから、再びインストールを行います。ドライバーのインストールに失敗した場合もこの手順にしたがって削除してください。

4.3.1 ドライバーの削除

- (1) 「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」と進み、「ネットワークアダプタ」の下から項目「corega FastEther CB-TX Ethernet Card」を選択し、「削除（E）」ボタンをクリックしてください。
- (2) 下のダイアログが表示されたら、「OK」をクリックします。



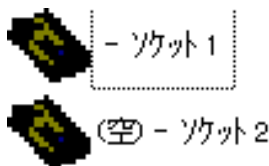
画面 18 デバイス削除の確認

- (3) 「ネットワークアダプタ」のアイコンが消えます。



画面 19 デバイスマネージャ

- (4) 「システムのプロパティ」の「閉じる」ボタンをクリックしてください。
- (5) タスクバーのPCカードアイコンをダブルクリックします⁺。「ソケットの状態」タブが表示されます。本アダプターが挿入されていたソケットの表記が「-」（画面では「- ソケット1」）となっていることを確認して下さい。



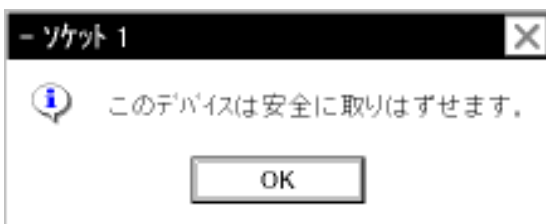
画面 20 デバイス削除後の「ソケットの状態」

- (6) 該当するソケット（画面では「- ソケット1」と表記）を選択（反転表示）させると「終了」ボタンが有効（アクティブ）になりますので、クリックします。（この手続きは従来の16ビット仕様のカードと異なります。ご注意ください。）



画面 21 デバイス削除後の「ソケットの状態」(2)

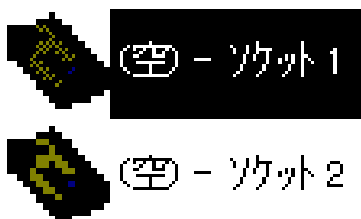
- (7) 下のダイアログが表示されます。「OK」をクリックします。



画面 22

- † 本文は「削除」実行後に初めて「ソケットの状態」タブを開く場合について記述しています。「削除」実行前に「ソケットの状態」画面を開いておいた場合は、最初に表示されたデバイス名 "corega FastEther CB-TX Ethernet Card" が「削除」実行後も変わらず表示されます。この場合も必ず手順(6)以降の手続きを実行してください。（本文中「-ソケット1」を「corega FastEther CB-TX Ethernet Card」に置き換えて下さい。）

- (8) ソケットから本アダプターを抜きます。
- (9) 「ソケットの状態」で、スロットに「空」と表記されていることを確認して下さい。



画面 23

- (10) タスクバー上でPCカードアイコンが消えていることもご確認ください。以上で削除の手続きは終了です。



画面 24 タスクバー

4.3.2 再インストール

本アダプター用ドライバーを再インストールする手順は以下の通りです。

- (1) Windows95を終了し、コンピュータの電源を切り、本アダプターをPCカードスロットに挿入し、再びコンピュータの電源を入れます。
- (2) Windows95が起動し、「デバイスドライバウィザード」ダイアログが表示されます。
- (3) 4.1.2項の**手順3**から再開します。

5. ネットワーク

5.1 ネットワーク接続の手順

ネットワークに本アダプターを接続し、ネットワークを使用できるまでの手順は以下の通りです。

1. 本アダプターとメディアケーブル（本アダプター付属）を接続します。
2. メディアケーブルとネットワーク機器（ノード）[†]をネットワークケーブルで接続します。

[†] 本マニュアルではハブ（10BASE-T/100BASE-TXの集線装置）を例に説明します。

3. ネットワーク機器に電源を投入し、機器と本アダプターがリンク（通信が成立すること）していることを確認します。

次ページからの説明にしたがって、手順を実行してください。

5.2 メディアケーブルの接続

5.2.1 メディアケーブルの装着

図5-1のように、メディアケーブルのケーブルI/Oコネクタを白矢印のある面を上にして、コネクタ両側にある爪を押さえながらカードI/Oコネクタに「カチッ」と音がするまで差し込んで下さい。差し込んだらメディアケーブルを軽く引っ張ってみて抜けないことを確認してください。

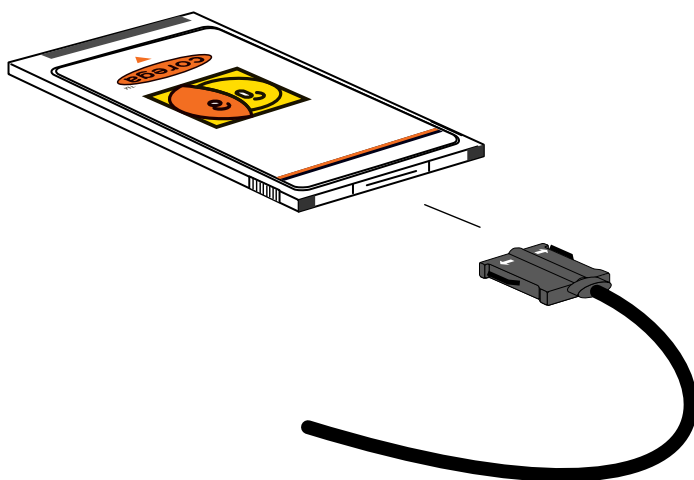


図 5-1 メディアケーブルの装着

5.2.2 メディアケーブルを取り外す

メディアケーブルをカード本体から取り外すときはカードI/Oコネクタ両側の爪の部分を親指と人差し指で摘みながら引いてください。

カードI/Oコネクタに無理な力をかけて引き抜くことは絶対におやめ下さい。カード・コネクタ双方が破損する恐れがあります。

5.3 ネットワークに接続する

次に、ネットワークに接続します。

ここでは例として、本アダプターをハブと接続する場合について説明します (図5-2 参照)。

- (1) ネットワークケーブルのモジュラープラグをメディアケーブルのモジュラージャックに、カチッと音がするまで差し込んで下さい。
※モジュラープラグを挿入または外すときにはプラグの爪を親指で押さえながら行います。
- (2) ネットワークケーブルを引っ張ってみて抜けないことを確認してください。
- (3) ネットワークケーブルのもう一方のモジュラープラグをハブのモジュラージャック (PORTと表記されている場合もあります) に差し込んで下さい。

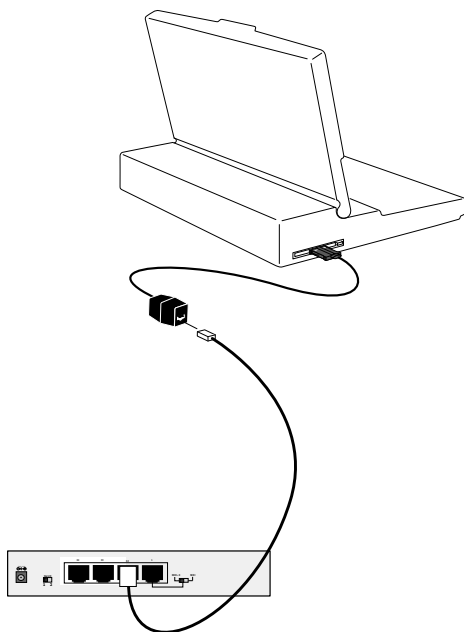


図 5-2 ネットワークへの接続

5.4 ネットワークケーブルについて

本アダプターとネットワークを接続するネットワークケーブル（UTPケーブル）は以下のものをご使用下さい。ネットワークケーブルのご購入につきましては、弊社までお問い合わせください。

■100BASE-TX用のUTPケーブル

必ずカテゴリ5のケーブルをご使用ください。

■10BASE-T用のUTPケーブル

カテゴリ3～5のケーブルを使用することができます。

不適当なカテゴリ番号のもの（数字の小さいもの）や品質の悪いケーブルを使用すると、「リンクできない」「通信でエラーが発生する」「通信できない」などの障害が発生します。なお、UTPケーブルのカテゴリは、外見では区別できないので、何種類ものカテゴリのケーブルを混在して使用している場合は注意が必要です。

5.5 リンクの確認

最後に、ハブとコンピュータの両方に電源を投入し、本アダプターのLNK LEDとハブのLINK OK LEDの両方が点灯することを確認します。点灯が確認できれば、ネットワークへの接続は正常に完了しています。

どちらか一方しか点灯していない、または両方が消灯している場合は本アダプターとハブは正しくリンクしていません。その場合はネットワークケーブルの断線やケーブルの配線ミス、使用ケーブルの誤りなどが考えられます。



ご使用の状態によっては大変熱くなります

本アダプターは内部に高度に集積した構造を持っていますので、ご使用中に高熱を発することがありますが、異常ではありませんので安心してご使用下さい。

A. 付録

A.1 規格仕様

1.ハードウェア仕様

カード規格：	PC Card Standard (CardBus)	
ネットワーク：	IEEE802.3	10BASE-T
	IEEE802.3u	100BASE-TX
	IEEE802.3u	Auto-negotiation
	ANSI	X3.263:199X

2.機械的仕様

外形：	カード	85.6(L)x54.0(W)x5.0(T) (mm)
		Type II
	メディアケーブル	300 (mm) (コネクタ部含む)
重量：	45 g (カード+メディアケーブル)	

3.電氣的仕様

動作電圧：	DC+3.3V±10%
消費電流：	460 mA (max)

4.環境条件

周囲温度：	0～55℃ (PCカードの周囲)
湿度：	0～90% (但し、結露なきこと)

5.信頼性

設計寿命：	100,000 時間 (25℃)
-------	------------------

6.電気雑音の発生防止

雑音端子電圧：VCCIクラスB

雑音電界強度：VCCIクラスB

7.ネットワーク機能

転送速度：10M / 100Mbps

A.2 ネットワークインターフェース

本アダプター付属のネットワーク用メディアケーブルはRJ-45 型と呼ばれるモジュージャックを使用しています。

図A-1に、10BASE-T/100BASE-TX モジュージャックの信号線を図示します。

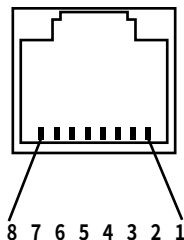


図 A-1 10BASE-T/100BASE-TX モジュージャック

(1) TX+	送信データ(+)
(2) TX-	送信データ(-)
(3) RX+	受信データ(+)
(4) ---	未使用
(5) ---	未使用
(6) RX-	受信データ(-)
(7) ---	未使用
(8) ---	未使用

A.3 MACアドレス

イーサネットに接続される機器は、MACアドレス[†]と呼ばれるアドレスを使って通信を行います。MACアドレスは機器 (アダプター) のひとつひとつに割り当てられた唯一無二の (unique、ユニークな) アドレスです。

† MACアドレス (マックアドレスと読みます) は、物理アドレス、ネットワークアドレス、イーサネットアドレスと呼ばれることもあります。また、MACアドレスは、TCP/IPの環境で使用される IP アドレスに関係がありますが、これらは別物です。

MACアドレスは、下記の 6 バイト (48ビット)によって構成されており、本アダプターの内部に書き込まれているため、ユーザーが変更することはできません。

本アダプターのMACアドレスは、製品裏面に貼付されているMACアドレスラベルに記入されています (表記は全て16進数)。

00	00	F4	5x	xx	xx
ベンダーID (*1)			通し番号 (*2)		

(*1) ベンダー ID: LANベンダー (LAN用機器を製造しているメーカー) が IEEE に申請することにより得られる識別番号。

(*2) この番号は、当社が製品のひとつひとつに割り当てた通し番号で、本アダプターでは**58**または**59**から始まる6桁の数値になっています。
(この番号はシリアルナンバーとは別物です。)

保証

本書に記載されている「製品保証規定」をお読みになり、「ユーザー登録用紙」に必要事項を記入して、弊社「ユーザー登録係」までご返送ください。「ユーザー登録用紙」が返送されていない場合、修理や障害発生時のユーザーサポートなどが受けられません。

ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、巻末の「調査依頼書」をコピーしたものに必要事項をご記入の上、下記の番号まで FAXしてください。できるだけ電話による直接の問い合わせは避けてください。FAXによって詳細な情報を送付していただくほうが、電話による問い合わせよりも遥かに早く問題を解決することができます。記入内容の詳細は、「調査依頼書のご記入のお願い」をご覧ください。

Tel: 045-476-6268
月～金（祝・祭日を除く）
10:00-12:00、13:00-17:00
Fax: 045-476-6294
年中無休 24 時間

調査依頼書のご記入のお願い

調査依頼書は、お客様のご使用環境で発生した様々な障害の原因を突き止めるためにご記入いただくものです。障害を解決するためにも以下の点にそって、十分な情報をお知らせください。記入用紙で書き切れない場合には、別途プリントアウトなどを添付してください。

ハードウェアとソフトウェア

- * 本アダプター上に貼られたラベルに記入されている下記のシリアル番号(S/N) 製品リビジョンコード(Rev)を調査依頼書に記入して下さい。

(例)



- * ご使用になっているソフトウェアの種類／バージョン（Ver.）／シリアル番号を記入してください。それらは、ドライバディスクのラベル上に記入されています。
- * 他社のインターフェースボードやユーティリティをご使用の場合は全てご記入下さい。
- * 接続しているサーバーの機種とその環境も可能な限りご記入下さい。

お問い合わせ内容について

- * どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかを出来る限り具体的に（再現できるように）記入して下さい。
- * エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容のプリントアウトしたものなどを添付してください。
- * 障害などが発生する場合には、本アダプターと併用されているユーティリティや、アプリケーションの処理内容もご記入下さい。

ネットワーク構成について

- * ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。
- * 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

システムリソースレポート添付のお願い

お手数ですが**システムリソースレポート**（下記参照）を出力し⁺、調査依頼書に添えてお送り下さいますようお願いいたします。

＋ ご使用のネットワークにプリンタが接続されていない、またはネットワークの障害のためにネットワークプリンタを使用できない場合はコンピュータに直接プリンタを接続する必要があります。
詳細はネットワーク管理者にご確認下さい。

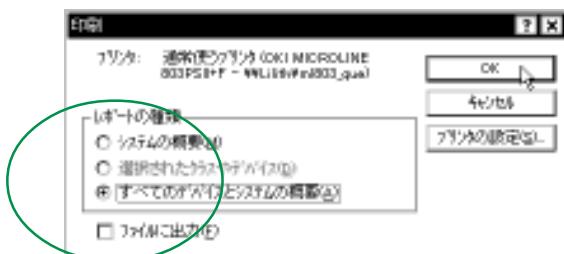
システムリソースレポートの出力手順

- (1) コントロールパネル→システム→デバイスマネージャと進み、「印刷(N)...」をクリックします。



画面1 デバイスマネージャ

- (2) 「レポートの種類」で「すべてのデバイスとシステムの概要(A)」オプションを選択し「OK」をクリックします。システムリソースレポートが出力されます。



画面2 システムリソースレポートの出力

システムリソースレポートの出力例

システムリソースレポート - ページ : 1

***** システムの概要 *****

Windows バージョン : 4.00.950
コンピュータ名 : 不明
CPU の種類 : Pentium
システムバスの種類 : ISA
BIOS 名 : Phoenix
BIOS の日付 : 01/08/97
BIOS のバージョン : Phoenix NoteBIOS Version 4.05
コンピュータの種類 : IBM PC/AT
数値コプロセッサ : Not Present
登録オーナー : X X X X X X
登録会社 : X X X X X X

***** IRQ の概要 *****

IRQ の使用 :

- 00 - システムタイマー
- 01 - 106 日本語 (A01) キーボード (Ctrl+英数)
- 02 - プログラミング可能な割り込みコントローラ
- 03 - 通信ポート (COM2)
- 04 - 通信ポート (COM1)
- 05 - ES1878 Plug and Play AutoDrive
- 06 - スタンダードフロッピーディスクコントローラ
- 07 - プリンタポート (LPT1)
- 08 - システム CMOS/リアルタイムクロック
- 10 - Texas Instruments PCI-1130 CardBus Controller
- 10 - PCI ステアリング用 IRQ ホルダー
- 11 - PCI ステアリング用 IRQ ホルダー
- 11 - corega FastEther CB-TX LAN Card
- 11 - Texas Instruments PCI-1130 CardBus Controller
- 12 - PS/2 ポートマウス

調査依頼書(corega FastEther CB-TX 1/2)

年 月 日

一般事項

1. 御社名： _____
 部署名： _____ ご担当者： _____
 ご連絡先住所：〒 _____
 TEL: (_____) FAX: (_____)
2. 購入先： _____ 購入年月日： _____
 購入先担当者： _____ 連絡先(TEL): (_____)

ハードウェアとソフトウェア

1. ご使用のハードウェア機種（製品名）、シリアル番号、リビジョン

製品名： corega



S/N _____ Rev _____

ドライバディスクのバージョン Ver. pl

2. ご使用のパソコン機種と併用している他メーカーの拡張アダプタ (ボード)
パソコンのメーカー名／機種：
OS とバージョン：
拡張アダプタのメーカー名／機種：
3. ご使用のサーバー機種 (UNIX、NetWare、WindowsNT など)
パソコンのメーカー名／機種：
OS とバージョン：

お問い合わせ内容

- ☐別紙あり ☐別紙なし
☐設置中に起こっている障害 ☐設置後、運用中に起こっている障害

調査依頼書(corega FastEther CB-TX 2/2)

年 月 日

ネットワーク構成

☐別紙あり ☐別紙なし

簡単なもので結構ですからご記入をお願いします。

おことわり

- ・ 本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- ・ 予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
- ・ 改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。
- ・ 本装置の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

©1997 株式会社コレガ

coregaは、株式会社コレガの商標です。

イーサネットは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。

Windows、MS-DOSは、米国Microsoft Corporationの登録商標です。

1997年07月 Ver. 1.0 pl 0

1st release

製品保証規定

- この製品保証規定は、製品保証書に明記した期間内において、取り扱い説明書などにしたがった正常な使用をしていたにもかかわらず故障が発生した場合に、無償修理をお約束するものです。
- 保証期間内の無償修理は、故障製品を弊社までお送りいただき、修理完了品または代替品をお客様に返送することとします。表面の製品保証書に記載された「製品保証に関するお問い合わせ先」まで故障製品を送付してください。送料はそれぞれ送付元負担とさせていただきます。
- 保証期間内であっても次の項目に該当する場合は、無償修理の適用外とさせていただきます。（ただし、無償修理の適用外であっても有料での修理または代替品への交換・サービスはご利用いただけます。）
 1. ユーザー登録用紙の記載に記入漏れなどの不備がある場合、またはユーザー登録用紙が弊社へ送られていない場合
 2. 使用上の誤り、または不当な修理や改造によって生じた故障および損傷
 3. お買い上げ後の輸送、移動、落下などによって生じた故障および損傷
 4. 火災、地震、水害、落雷、その他の天変地異、公害、塩害、異常電圧などの外部要因によって生じた故障および損傷
 5. 車両、船舶などに搭載されたことによって生じた故障および損傷
 6. 消耗品の交換（バックアップ電池など）
 7. 製品保証書の提示がない場合
 8. 製品保証書の所定事項に記入がない場合、または字句を不当に書き換えられた場合
- 修理によって交換された代替品、不良部品の所有権は弊社に帰属するものとします。
- 製品保証規定は、本製品についてのみ無償修理をお約束するもので、本製品の故障または使用によるその他の損害については、弊社はその責を一切負わないものとします。
- 製品保証書は、日本国内のみで有効です。
- 製品保証書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管してください。

製品保証書（3年保証）

この製品保証書は、株式会社コレガが定める製品保証規定（裏面）に基づき、製品の無償修理をお約束するものです。

製品名 corega _____

シリアル番号
(S/N)

ご購入日

製品保証に関するお問い合わせ先

coregaサポートセンター

TEL : 045-476-6268 FAX : 045-476-6294

受け付け時間：10:00～12:00/13:00～17:00

月～金（祝・祭日を除く）

販売店様印

※ 製品名、シリアル番号、ご購入日をご記入ください。